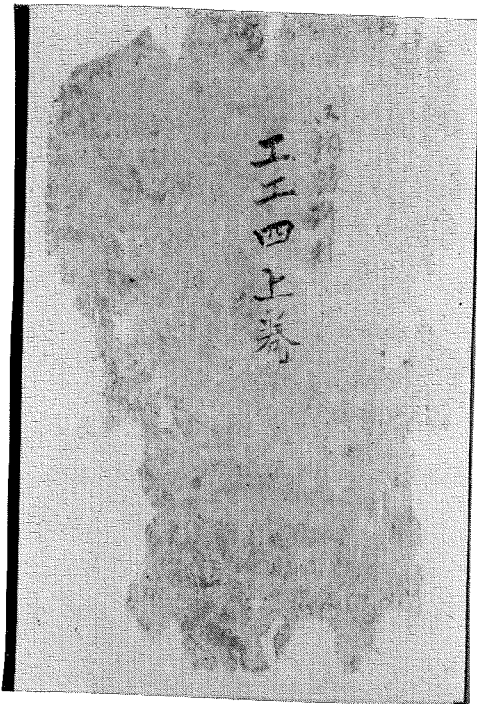


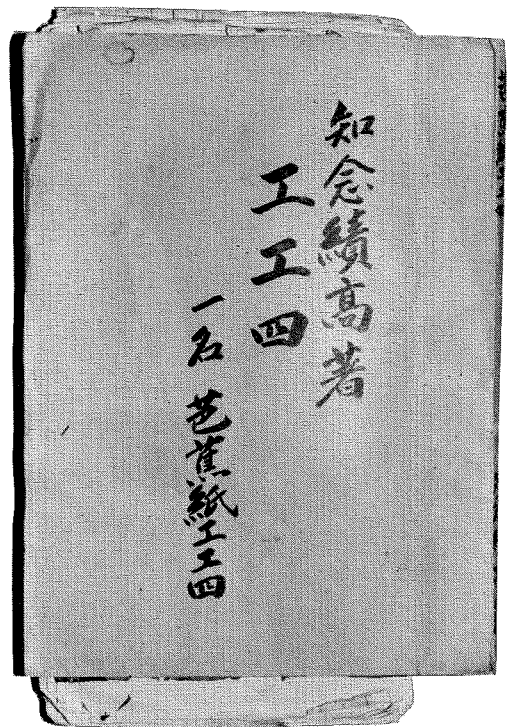
沖縄県立博物館所蔵の「工工四」について (三)

宜保 栄治郎

はじめに、県立博物館には山内盛彬氏から寄贈をうけた(1)「伝御拝領 野村工工四」上巻、中巻、下巻、(2)「伝知念績高著 一名芭蕉工工四」(3)「伝御拝領湛水流工工四」があり、その他に池宮喜輝収集の(4)「沖縄三味線音符 上巻、中巻、下巻、続巻」(5)「野村流工工四 全 喜輝蔵書」その他(6)「工工四 上巻、中巻、下巻、山城」(7)「大正元年十月 屋嘉比工工四 山内盛彬」(8)「工工四 湛水流 勢理客記」(9)「御拝領 湛水流工工四全 具志頭証」(10)「工工四 下 琉球音楽研究会」(11)「昭和10年古堅盛保発行 工工四」がある。既に前記の「伝御拝領野村工工四」について沖縄県立博物館紀要10号、11号であらましを述べたので残りの10編の紹介をすることだけにとどめたい。



(写真1. 御拝領野村工工四)



(写真2. 伝知念績高著工工四)

(★ぎぼえいじろう 県立博物館副館長)

1. 書名 沖縄三味線音符上巻
 書型 27.0cm、横19.8cm、和綴じ
 表紙 薄い柿色
 紙数 68枚（凡例6ページ、本文4、5枚。付録11枚。絃声の巻5枚、工工四目録6枚、音符35枚）

工工四目録 上巻 上巻37節、中巻26節、下巻87節、計150節
 カギヤデ風、恩納節、中城ハンタ前節、コテイ節、謝敷節、早作田節、金武節、平敷節、白瀬走川節、クニヤ節、辺野喜節、大兼久節、仲村渠節、湊原節、出砂節、仲順節、仲間節、本散山節、チルレン節、坂本節、伊江節、石ン根ノ道節、本部長節、本田名節、大田名節、アガサ節、瓦屋節、赤サクハデサ節、芋之葉節、踊クハデサ節、真福地之ハイチャウ節、花風節、本花風節、本嘉手久節、ゴエン節、ツナギ節、揚作田節

発行及び印刷年月日 不明

人手経緯 コザ市桃原区730 池宮喜輝氏より1966年11月28日上、中、下、拾遺の4冊を5ドルで購入。台帳番号2410

特長及び評価 この本は池宮氏より南米イリヤン族楽器9個と同時に購入されていることから、池宮氏はその頃南米に行かれ、持ち帰ったものを沖縄県立博物館に貴重なものとして売ったものと思われる。

当工工四は、表装は新しいものの中身は手書きで、字も丁寧に格調が高く、琉球王朝時代に訓練された者の筆写であろうことは間違いない。つまり由緒正しい写本である。その事が池宮氏が博物館に保存を申し出た原因とおもわれる。山内盛彬本や仲真良樽金本がある現在ではそう問題にすべき本ではないが、購入された時点で研究しておれば今問題にされている種々のことが解決されていたものと思われる。今後工工四研究をするうえでは是非目を通さなければならない本の一つである。

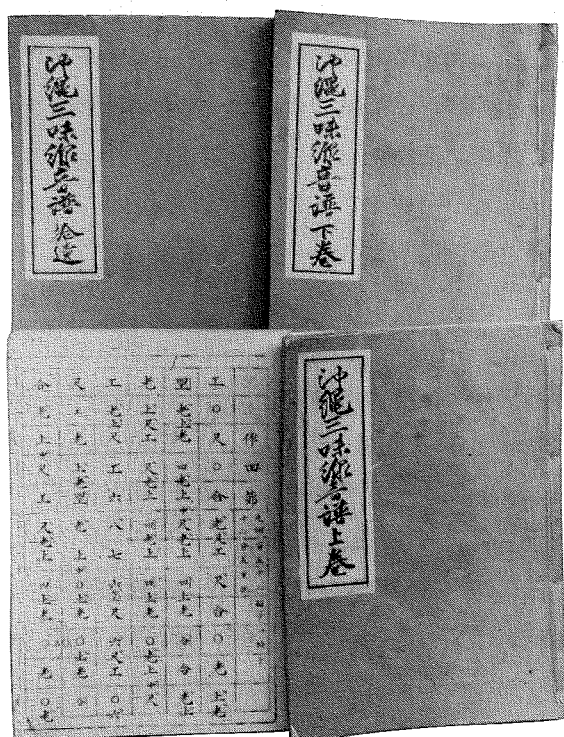
2. 書名 沖縄三味線音符中巻
 書型 縦27.0cm、横19.8cm、和綴じ
 表紙 薄い柿色
 紙数 70枚（目次 2ページ、音符65枚）

中巻 節名 作田節、チャンナ節、首里節、ショドン節、暁節、茶屋節、昔蝶節、
長チャンナ節、仲節、十七八節、東コマ節、エラブ節、昔カデク節、
柳節、天川節、稲マヅン節、長伊平屋節、通水節、本伊平屋節、比屋
定節、東江節、伊野波節、仲風節、述懐節、赤田風、今風節

発行及び印刷年月日 不明

入手経緯 上巻に同じ

特長及び評価 上巻に同じ



(写真3. 沖縄三味線音譜上、中、下)

3. 書名 沖縄三味線音符下巻
書型 上巻、中巻に同じ
紙数 74枚 (下巻目次4枚、中身65枚、他9枚)
下巻 目次 干瀬節、子持節、散山節、仲風節、述懐節、ヨシヤイナフ節、七尺節、
揚七尺節、白鳥節、立雲節、百名節、古見之浦節、屋慶名節、伊豆
味節、サアサア節、浮嶋節、前之浜節、与那原節、遊子持節、坂原口説、

荻堂口説、揚古見之浦節、蝶小節、東里節、大浦節、世栄節、垣花節、沈仁屋久節、揚沈仁屋久節、高禰久節、揚高禰久節、スキ節、池ンタウ節、打豆節、与那節、久米ハンタ前節、江佐節、湊クリ節、清屋節、本田名節、ハヤリグワイニヤ節、宇地泊節、綾蝶節、津堅節、高離節、ズズ節、伊集早作田節、伊集之本節、シャウンガナイ節、シホラア節、口説、早口説、節口説、道輪口説、大願口説、揚口説、シホライ節、松本口説、万歳カフス節、ウフンシヤリ節、サインソル節、伊計離節、亀甲節、越来節、南だき節、ショングフ節、ソレカン節、ヤリコノシ節、カンキャイ節、仲里節、嶋尻天川節、早か手久節、安波節、テンヤウ節、勝連節、ジツサウ節、イヤリ節、アカケナ節、小浜節、石之びよう風節、赤馬節、タラクジ節、鳩間節、布晒節、白保節、月夜浜節、ナカラタ節

発行及び印刷年月日 不明

入手経緯 上巻、中巻に同じ

4. 書名 沖繩三味線音符拾遺
 書型 上巻、中巻、下巻に同じ
 表紙 同上
 紙数 62枚（目次4枚、音符55枚、その他3枚）

5. 下巻 目次 昔田名節、宮城クハデサ節、長金武節、東江節、同節、中作田節、与儀前ン田節、越城節、前之渡節、大浦越路節、黒嶋節、アサダウヤ節、川平節、仲泊節、久米阿嘉節、作タル米節、竹之葉節、蔵之花節、祖納嵩節、桑ムリ節、屋慶名クハデサ節、遊諸屯節、白鳥節、浜千鳥節、ヤクザイ節、ヤエンサ節、ソンバレ節、ノンフリ節、万寿主節、子守節、宇原越路節、仲道節、高疋節、上原之嶋節、夜雨節、クロク節、ソノマンザイ節、タウガ子節、真南風ラツ節、千鳥節、弥ろく節、取納奉行節、船越節、松ニヤマ節、タノムゾ節、今帰仁之城節、宮古子守歌、九年母木節、子イノマイ主節、仲筋節、シャウンガナイ節、同節、ハイヨヤエ節、砂持節、首里子節、ヨラテク節、サイヤウ節、与那覇節、揚与那覇節、読谷山節、稲摺節、コノ歌三味線節、崎山節、武富節、漢那節、オメヤカラ節、遊シャウンガナイ節、ハシノ鳥節、御物奉行節、前ン田節、谷茶前節、サツク節、仲風節、同節、

同節、同節、同節、述懐節、同節、同節、同節、按司出羽手事、狂言
出羽手事、同引羽手事、羽躍手事、笠之段、渡りザウ、ジャンナ首里
節諸屯節弾出

発行及び印刷年月日 不明

入手経緯 上巻、中巻、下巻に同じ

特長及び評価 御拝領野村工工四（山内盛彬本）の凡例に「此三巻ノ外ニ草弾羽節手
事等尤モ廃スベカラザル者ヲ集輯シテ拾遺集ト名ケタリ是又継テ見ル
ベシ」とあるが、上巻、中巻、下巻に比べて拾遺は軽視したせいか古いも
のは少ない。現在野村流、安富祖流とも続巻があるがこの拾遺とは大変
出入りがある。この事情を世礼国男は声楽譜工工四に「猶、本書に於
いては、野村工工四に収録された先島地方出自の曲の大部分と、そ
他の小曲数種を割愛いたしました。此等の小曲は概ど師伝ではなく、
又、今日奏唱されているのには野村工工四と非常なけい庭を生じてい
るので、その三味線譜のままでは声楽の採譜が出来なかつたり、たと
ひ出来ても研究者から顧みられない状態にあり、結局、野村流とは別
個に取扱はるべきものとかんがへられます」と記しているのがこの間
の事情を物語っている。

1. 野村流と本書の曲目は八割方違いがあり、共通する曲目も内容は相当な違いを見せている。その点安富祖流の続巻はこの本を参考にしているようで曲名が六割方共通しているが内容は相当の差異がある。幸い本書は弦楽譜であるから、共通する曲については比較が可能である。
2. 充分詮索したわけではないので確実なことは言えないが「浜千鳥」などを見た感じでは、今に比べると弦音と仮名が同時に発音されているところが多いのでこの下巻は古い形を残しているものとおもわれる。
3. 最も奇異に感ずることは「仲風」が五曲、「述懐」が四曲も記載されていることである。曲には揚げ、下げ、小があるとしても説明がつかない。いろいろな歌いかたがあったとしか解釈できない。

伝統ということにこだわって古典曲が一つしかないとこだわっている現在の風潮に対して大きな示唆を与える資料である。

4. 本書にはその原典と思われる「野村工工四」には無いものが、次のように書き加えられている。

(ア) 上巻きの目録にはじめて上巻、中巻、下巻の節数が記入されている。

上巻一凡さ三十七節、中巻一凡さ二十六節、下巻一凡そ八十七節、但し拾遺集の

節名はなし。

(イ) 序文の順序に入れ違いがある。それは、野村工工四では序文の最後にある凡例が本書では最初にきていること。

(ウ) カナ使いに多少の違いがある。次に一欄表で示す。(・)印は違いのあるところ

節名	野村工工四	本書
中城ハンタ前節	マヅヨマテツレラ	マヅユマテツレラ
早作田節	コエノシユラソヤ	コエノシユラシヤ
金武節	コバヤキンコハニ	コバヤキンコバニ
	ダケヤアフソダケ	ダケ(ヤ)アフソダケ
平敷節	ゲンカハリカハヤ	ケンカハリカハヤ
	オスデドコロ	オスデドコ(口)
出砂節	イツミダチモタヘル	イツミダチモタヘル
本散山節	ユダンドモスルナ	ユタンドモスルナ
石ン根ノ道節	アガソミヤウ ヤウ	アガソミヤ ヤウ
アガサ節	ミヤマクボヤウダインス	ミヤマクボヤウタインス
	オメシホラヂヤンナヤウ	オメシホラチヤンナヤウ
赤サクハデサ節	メオドントタンカ	メオドント(タ)ンカ
踊クハデサ節	マドマドドテユル	マトマドドテユル
花風節	チュミドミユル	チュ(ミ)ドミユル
本花風節	ウチマ子クアヲギ	ウ(子)マネクアヲギ

まだ沢山あると思われるが、要するに本書は写本ミスが多い。察するに本書は装丁からして沢山作られたとおもわれるから、需要が多くなるにつれて手書ではあるが大量に制作された工工四のはしりと考えていいようなものであろう。